

## Preface

---

外貨建て債券の魅力と言え、まず、何といても「高い金利」であろう。そのうえ、満期（償還）時には額面金額が戻ってくることも約束されているので、株式に比べれば安心感もある。

加えて、為替が円安・外貨高になれば「プラス $\alpha$ のリターン」も得られる。

その基本的な仕組みも、預貯金に似ていて馴染みやすい。ハイリスク商品は避けたいが有利にお金を増やしたい人、とにかく金利が欲しい人からすれば、おそらく、入りやすい投資対象に違いない。

しかも、近年は、通貨の種類も増えて、「為替によってはプラス $\alpha$ のリターン」を狙う選択肢も広がっている。高い金利と「プラス $\alpha$ 」を期待したい人にとっては、好ましい環境になっているかのようでもある。

しかし、現実はどうなのだろうか。本当にその期待通りの運用ができるのか。外債投資の実像を掘り下げてみたのが本書である。

外債というと、株式やFX（外国為替証拠金取引）の売買をしている人にとっては、地味で、面白味がない投資対象に思えるかもしれない。

確かに、外債には「うまくすれば大儲けできる」というような派手さはない。また、その時々で販売されている銘柄も変わるので、たとえば投資信託のように「いま注目はコレだ」というようなことも言えない。そのせい

か、いま個人向けに多様な外債が販売されているにも関わらず、マネー情報媒体などで外債が単独で取り上げられることはあまりない。基本的な仕組みが単純そうに見えることもあって、「外債だけでは誌面が持たない」ということだろうか。「外貨建て商品のひとつ」として登場するのがせいぜいだ。

だが、調べてみると、これが意外なほどに面白い。同じ「外債」として括られていても、種類によってメリット・デメリットは様々、注意点や注目ポイントも様々である。中には、高利回りを謳っていても、「個人向け国債のほうがよほどいいのではないか」と思ってしまうようなものもあれば、結構なリターンが期待できそうなものもある。着眼点の違いによって、有利な投資対象にもなるし、不利な投資対象にもなる。それが外債のひとつの特徴ではないか。

本書で紹介している内容は、外債に関心がある方はもちろん、最近登場している新興国通貨建ての外貨預金に興味がある方にも役立てていただけるのではないかとと思う。また、「自分は株にしか興味がない」という方も、債券のほうにも目を向けると、新たな投資アイデアが生まれてきたりするものである。その意味で、「株の人」にも是非ご一読いただければ、と考えている。

本書が、資産を増やすという皆さまの目的を実現される一助となれば、このうえなく幸いである。

2012年5月 なでしこインベストメント